

岡山大学附属図書館報

OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

NO. 25

1997
JULY

中央館新館開館後の附属図書館の課題

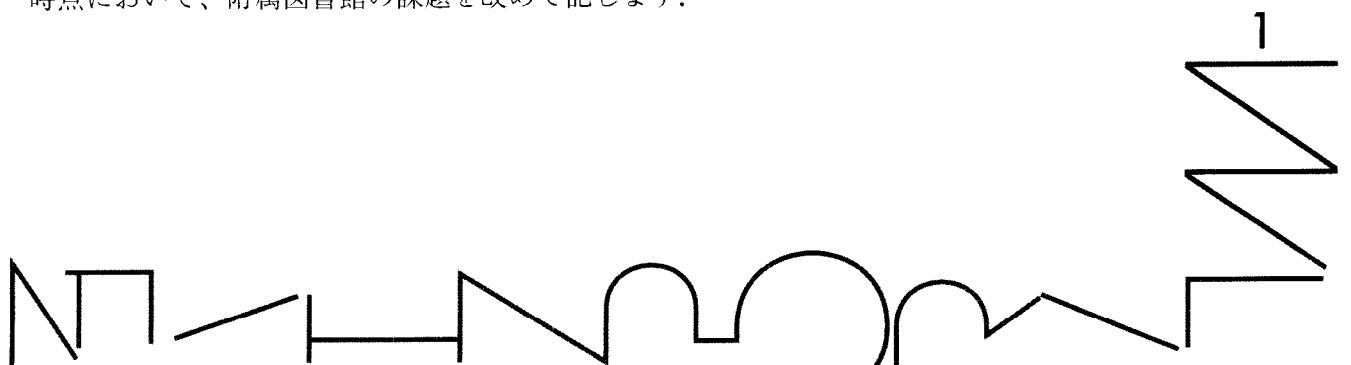
— 館長に就任して —

神 立 春 樹

岡山大学の長年の懸案であった附属図書館中央館の増築が実現し、4月7日、新館が開館しました。既設の本館も改装され、中央館は装いを新たにしました。学部・大学院学生数の増加、図書資料の増加による狭隘化と老朽化が進んだ図書館施設の整備充実は岡山大学における最も緊急を要する課題の一つでありましたが、これによって大きく改善されました。開館以来、学生の入館が増加し、午後10時までの開館時間中、図書館は充分活用されています。ゆったりとした閲覧スペースで読書し、随所に設置されたコンピュータ端末を操作している様子を見て、学習の環境が飛躍的に改善されたということを実感します。土曜日・日曜日も開館しており、市民の利用も増え、地域社会への対応も進んでいます。

岡部喬前図書館長からのバトンタッチが、新館建設という大きな課題が達成されて、学生の学習環境が飛躍的に改善された後であるということは、まことに幸せなことです。新館の実現までの道のりの長かったことを思うとき、長期にわたって取り組まれた関係各位、リーダーシップを発揮された小坂二度見学長に感謝の意を表する次第です。

施設面では老朽化が進む鹿田分館の改装が課題ですが、先年の資源生物科学研究所分館の新築に次ぐ、そしてなによりも中央館新館開館という施設面での画期的な改善を見た現時点において、附属図書館の課題を改めて記します。



第一は、新装になった中央館に相応しい学生用図書・資料の整備です。従来から指摘されてきた図書館の問題点の一つは、蔵書構成の不十分さ、ことに学生用図書の貧弱さです。広々とした新館、改装された本館の各フロアの図書は主としてもとからの学生用図書で、この充実が一層差し迫った課題となりました。時恰も教育研究の大改革が進行しているときであり、各学部における一貫教育を支える上で速やかに解決しなければならない問題です。また、増加している外国人留学生のための図書資料も特別の配慮が肝要です。

この学生用図書の貧弱さはそれを適切に収集してこなかったことによりますが、その要因はなによりも図書購入費が少ないという予算的制約にあります。国立大学の予算制度では、図書館に配賦される図書資料購入費は小さく、学内措置予算が図書館図書資料の購入費に充当されています。岡山大学でも従来からそのようにしてきましたが、それは多額とは到底いえないものでした。幸い、この度、「図書館資料整備新3年計画」が承認され、3,060万7千円の学内措置が実現しました。これにより学生用図書、共通図書・雑誌の充実を図っていきます。

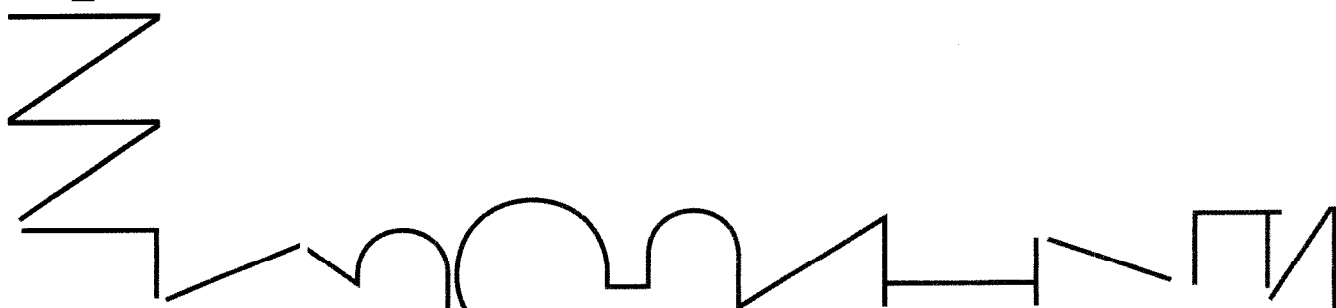
第二は、すべての学部に対応する大学院博士課程を有する研究拠点大学に相応しい蔵書構築です。岡山大学では毎年3億数千万円が図書・雑誌の購入に当てられ、年々3~4万冊の図書が増加しています。このうち図書館における図書・雑誌の購入は、文部省からの配賦2千万円程度と先程の学内措置分で、あとは各学部など部局の教官当積算校費・学生当積算校費によるものです。図書・雑誌を学部、学科や講座など、さらには個人が研究費で自由に購入できるということは研究促進の上で有効です。しかし、各自ばらばらに購入するので、往々にして重複が多く、重要なものの欠落も生じがちです。これを改善することは、蔵書構築における大きな課題です。なお、自然科学系学部の工夫で行われている自然科学の外国語雑誌の共同購入は高く評価されるべきことです。

第三は、電子ニューメディアへの対応、電子図書館的機能の拡充と促進です。各分野における研究の促進、新しい学問分野・学際的学問領域の発展にともなう学術情報量の増大、電子情報メディアの飛躍的発展という、学習・教育・研究活動を取り巻く環境の急激な変化に対応するための設備・資料の近代化が必要であり、これを促進してきました。総合情報処理センターの協力により館内には32台の利用者用情報端末を設置し、CD-ROMサーバによるデータベース提供を学内LAN経由で行っています。新館にはニューメディアコーナーを設け、また、随所にコンピュータ端末を設置しました。新館開館を契機に、電子的媒体による最新、かつ豊富な情報による教育・研究の促進に役立つ電子図書館的機能をさらに拡充することです。

第四は、特殊資料の保存とその活用・情報発信です。岡山大学附属図書館は旧岡山藩主池田家の池田家文庫という第一級の藩政史料や地方史料を所蔵しています。資源生物科学研究所分館の大原漢籍文庫・大原農書文庫、鹿田分館の古医書集成なども特色あるコレクションです。このうち池田家文庫はマイクロフィルム化が完了し、そのうちの「諸職交替」はデータベース化を済ませ、いま、絵図類のデータベース作成を科学研究費補助金を得て行っています。これらのコレクションは情報発信源として岡山大学附属図書館を特徴づけるものです。新館には展示室を設け、この特殊資料を展示できます。

第五は、地域社会、生涯学習社会への対応です。放送大学岡山地域学習センターに学ぶ学生の利用は本学学生に準じ、また、市民には公共図書館を介して貸出しも行っています。新館開館後は利用者が増加していますが、これに適切に対応することが課題です。

新館の完成により中央館のスペースは2倍以上になりました。しかし、職員の増員は全



くありません。少ない人手、予算的制約のもとで、以上のような課題のほか、さまざまな問題に職員の工夫と努力によって取り組みますが、これらは全学的な課題であり、全学の各位の理解と協力をお願いいたします。

(かんだつ・はるき 附属図書館長)

図書館資料費の増加に伴うサービス

橋本 健一

中央館の現状

学内のご理解とご協力により附属図書館の資料整備費として毎年約3,000万円を当校費から拠出していただくことになった。数年前まで、附属図書館の資料整備にたいする学内拠出額は微々たるものであり、多くを文部省配分経費に頼って学生用図書等の整備が続けられてきた。この結果、新刊図書の購入は少なく、自然科学分野において閲覧室の書架上の約4割は20年前の図書が並ぶという状態になっている。人文・社会科学分野においても新刊図書が少ない状況に変わりはない。今後は学生用図書費が十分でないにしろ増額になったことにより、学習参考図書における新刊図書及び大学の教育・研究にとって基本的な資料が徐々に整備されることが期待される。

大学が社会の中で果たす役割として、社会の変化に対応できる基礎能力と人間性を持った人材教育が期待されている。数年来、大学は制度的な枠組みの大学改革と合わせ教育改革に取り組んでいる。その行き着く先は、個々の授業内容の改革であろうが、研究重視の大学院、研究所、数多くの専門学部、多くの総合教養科目が渾然と融合した総合大学としての、岡山大学の特色をどう出せるかにかかっている。

研究情報資料の充実、支援

限りある財源の中で研究面においては、昨年学内特別経費によりサーバシステムが増強された。今年度、予算が確保されたことにより、研究者の希望に基づくCA（化学）、BA（生物）等の新たなデータベースを提供できることになった。また、自然科学系の強い要望により、中央館に配置されている自然科学系雑誌の補助を大幅に増額することとなった。大学院生用図書の充実とともに今後、大学院のウエートが重くなる中で、より広い体系的な研究支援への糸口になることを期待している。

教育・学習資料の充実、支援

大学において専門教育、総合教養教育の役割は大きい。今回の予算増額も多くは、学生用図書の充実に向けられている。各学部においてシラバスが作成されているが、テキストと授業参考図書の区別を明確にして、記載された授業参考図書については、授業担当教官の選定によって図書館に備えるようにしていただきたい。そして、授業との関連で広く学習するための図書及び自学自習に適した図書は研究室や学部には長く置くのではなく、学生等が共同利用できるよう図書館に備えていただきたいと願っている。

一冊の図書は、利用される回数が多いほど図書の効用は増加し、対費用効率は高くなる。化学分野や一部科目では具体的な課題の下、授業において学生が資料を利用しながら勉学



することが行われているが、より多くの科目において図書館を有効に利用し勉学することを学生に学ばせることが、これからの教育と図書館にとって必要と考えている。

今年、図書館資料整備新3年計画が十分ではないが、スタートした。今年と来年の実施状況を踏まえながら本学の教育・研究支援のための学術情報の収集と提供について今後も議論を積み重ねたい。

(はしもと・けんいち 事務部長)

図書館オリエンテーションに参加して

服部 高宏

法学部新入生とともに

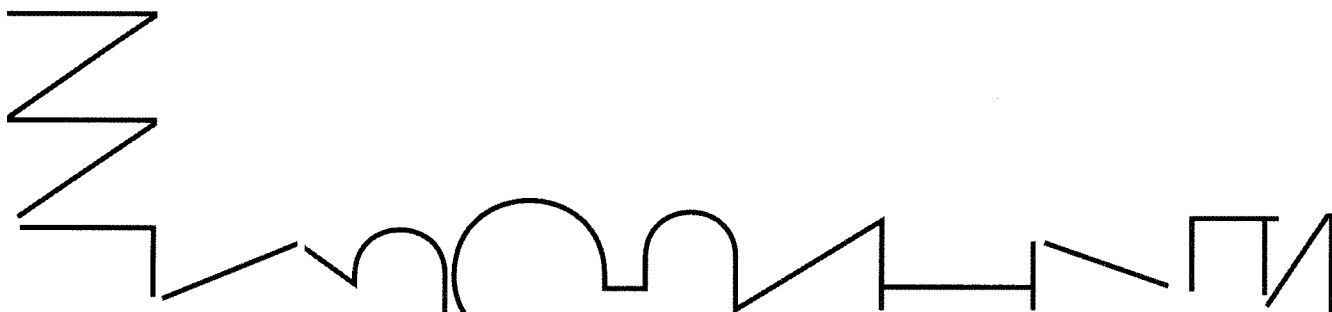
法学部では、法学基礎演習という1年次生向けの講義が毎年13クラスほど開講される。この講義では、1・2年次の間そのクラスの指導教官を務める教員が、法学部の専門教育を受ける上で最低限必要な基本的な技能（専門書の読み方、レジュメの作り方、報告の仕方、討論の仕方等）を学生たちに学ばせるところに狙いがある。講義の具体的内容は各教官の判断に任されるが、たまたま昨年度・今年度とこの講義を担当した私は、図書館オリエンテーションへの参加を講義メニューの一つに加えた。というのも、図書館を十分に活用できなければ、法学・政治学の学習は有意義なものとならないと考えたからだ。

オリエンテーションは毎年4月末から5月に行われる。学内者なら誰でも参加できるものの他に、ゼミ等を単位に予め申し込むと特別に開いて下さるものがある。私がお願いしたのは後者である。昨年も今年もわがクラス16名のために、参考調査係の皆さんが非常に丁寧に図書検索の方法を教えて下さった。昨年はオンライン目録と目録カードによって必要な図書を探し出す方法を实地に教えていただいた。今年はそれに加え、完成直後の新館のAV演習室で、モニターの映像を見ながら、図書館内の各種設備と図書検索の仕方について説明を受けた。学部の講義にも取り入れたいと思うほど効果的な説明の仕方で、学生たちも熱心に耳を傾けていた。

オリエンテーション後の宿題

情報化社会の時代とはいえ、法学部に入学してくる学生の大半はコンピュータにほとんど触れたことがない。だから、彼らにはオンライン目録の端末機は大きな壁である。それを入学したてのこの時期に専門の館員の方々の指導を受けながら操作してみられるのだから、彼らにとっては貴重な体験だ。苦勞しつつも何とかキーを叩いている彼らの姿を見ると、機械操作はすぐマスターしてくれそうだなとほっとする。

だが、油断は禁物、何事にも確認が大事だ。そこで昨年も今年も、検索方法がしっかりマスターできているかどうか確かめるため、私は学生たちに宿題を出した。それは、私が指定した書物を書庫で探し出して貸し出しの手続きをとり、講義時に持参するというただそれだけのものだ。何とレベルの低い宿題だと皆さんからお嘆きの声が聞こえてきそうだが、これだけのことが後々意外と役に立つ。昨年は各学生の関心や将来の目標を聞いた上で、各人に相応しい書物を一冊ずつ指定した。そのため、目的の本を探し出すのにかなり苦勞



したらしく、館員の方に手伝っていただいた学生が続出した。だが、今年は私に時間的余裕がなく、法学・政治学関係の基礎的文献についての読書案内を兼ねて、20冊程の書物のリストの中からいずれかを借り出すよう指示したにとどまった。だから、宿題としては少々簡単すぎたらしく、比較的簡単に皆が目的の本を見つけてきた。参考調査係の方々に「宿題だから手伝わないで」と予めお願いしておいたのだが、それも無用の心配だった。

「図書館ガイダンスを受けて、本当に助かりました。後で本を借りるとき、まったく困りませんでした。」2年次生のある学生が私にそう言った。彼のようにガイダンスに参加することが、多くの学生にとって図書館を有効活用するきっかけになればと思う。と同時に、私は一教官として、図書館員の方々と協力し合いながら、学生たちの学習をより効果的に支援できるような充実した図書の配備に務めることが、自分たちに課された大きな宿題であることを強く感じた。

(はっとり・たかひろ 法学部助教授)

Methods in Enzymology について

坪井 誠 二

平成8年度自然科学系図書資料として「Methods in Enzymology」(計274巻、278冊、ただし第7巻は廃刊)が岡山大学附属図書館に備付けられ、本館1階自然科学系雑誌閲覧室に配架されている。

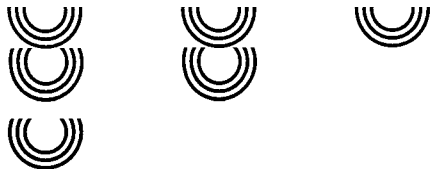
「Methods in Enzymology」は、第1巻が1955年に“Preparation and Assay of Enzymes”として出版されて以来、年に5～7冊の割合で出版され、1996年末で279冊を数える叢書である。本叢書は、タイトルに示される酵素の調製法・活性測定法・諸性質のみならず、広く生物化学及び分子生物学の分野における様々なテーマを取り上げ、各テーマ毎にその代表的研究例及びその研究法をまとめた生化学分野の代表的なものである。それゆえ教育・研究に重要かつ必須のアイテムである本叢書の全巻が一カ所に揃えられ閲覧できることは、本学の学生及び教官にとって大変意義深いものと考えられる。

現在、国内において第1巻から最新刊まで所蔵している大学は、東京大学、京都大学、大阪大学、広島大学他12大学である。これまで岡山大学では、各学部、各研究室または各教官がそれぞれ個別に購入しており、経費の面からも欠巻が多かった。薬学部においても、図書費予算の中から各研究室に振り分けられる単行本の購入費用を出し合い、いくつかの研究室で共同し、優先順位を付けながら毎年5、6冊の「Methods in Enzymology」を購入してきた経緯がある。その甲斐あって、現在、途中の欠巻はあるものの150巻前後を揃えることができている。しかし、「Methods in Enzymology」は、前にも述べたように年に5～7冊のペースで出版されており最新巻まで揃えるのは至難のわざであった。それゆえに今回附属図書館に1996年までの全巻を揃えることができたことは利用者として非常に喜ばしいことであり、関係者各位の御尽力に心より感謝したい。そして、1997年以降も継続して配架していただきたいと願うものです。

今後、これらの図書の更なる活用により、生物系のみならず広く自然科学系の諸先生方の研究がより一層発展する事を祈るものである。

(つばい・せいじ 薬学部助教授)

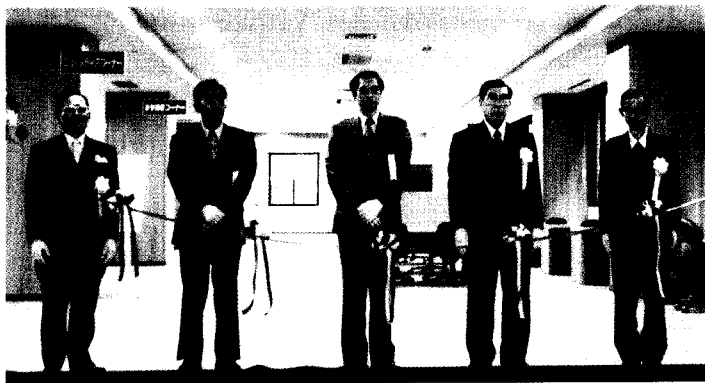




マスカット

中央館新館竣工披露式・祝賀会行われる

平成7年9月から工事中だった新館が完成し、平成9年3月27日(木)に新館竣工披露式と竣工祝賀会が行われました。式には文部省、中国・四国地区大学図書館協議会加盟館、本学OB、学内関係者及び工事関係者等約80名の出席があり、学長挨拶、祝辞、感謝状贈呈の後、新館のテープカットが行われました。また、新館の外観と内部写真を掲載した竣工パンフレットが配布されました。



中央館の開館時間延長

中央館の改修工事や、新館移転作業による臨時休館でご迷惑をおかけしましたが、4月7日(月)から開館しました。同時に授業期間の平日の開館時間を1時間延長し、午後10時までとするとともに、午後8時まで書庫が利用できるようになりました。

中央館入館者数増加

4月の新館オープンにより、よりよい環境がつけられ、入館者が前年に比べて大幅に増加しています(4月26,874人前年比127%、5月38,807人前年比139%)。

特に、テレビ、新聞等のマスコミに取り上げられたことにより、学外者の利用が前年比で約2倍になっています。

中央館オリエンテーション報告

中央館では例年通り図書館オリエンテーションとCD-ROMガイダンスを行いました。

また、MEDLINEの検索システムが変更になるため、MEDLINE講習会を開催しました。

<新入生オリエンテーション>

期 間：4月10日(木)～25日(金) *土・日・休館日を除く

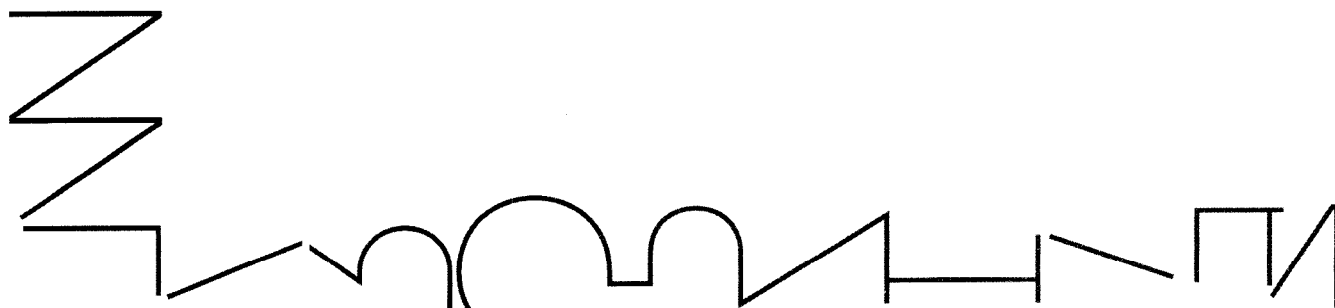
内 容：新入生向け図書館利用案内(パソコンによる利用案内、カード目録の使い方、オンライン目録の使い方)

参加人数：639人(自由参加：337人、授業単位：22組、292人、法学部、経済学部第二部対象：10人)

今年はパソコンによる利用案内で、新館1FのAV演習室の設備を利用しました。新館が完成したことで、参加人数が昨年の444人を大きく上回りました。

<CD-ROMガイダンス>

期 間：5月19日(月)～21日(水)、23日(金)



内 容：教官、大学院生、論文作成段階の学部学生向け CD-ROM 検索案内

参加人数：24組、121人

<MEDLINE講習会>

実 施 日：6月2日(月)

参加人数：156人（午前の部／津島地区 68人、午後の部／鹿田地区 88人）

MEDLINEの検索システムが変更となり、Webからの検索が可能となりました。また、対象期間が1966年からのフルセットとなりました。

鹿田分館オリエンテーション報告

鹿田分館では、4月9日(水)に新生、歯学部3年生に図書館案内オリエンテーションを、4月17日(木)には医学部・歯学部大学院新生を対象にしたセミナーを行いました。

図書館案内オリエンテーションでは、図書館の利用案内と館内ツアーを、大学院セミナーでは文献の探し方を中心に説明を行いました。

特殊文庫資料の利用状況について

平成8年度は、池田家文庫等特殊文庫の掲載許可書の発行が、無償40件、有償17件、合わせて57件ありました。平成6年度は30件、平成7年度は34件でしたので、約倍増となっています。特に岡山城築城400年祭関係が17件と多く、絵図のフィルムが出版社等の利用と交錯して、対応に追われた経緯がありました。そして、池田家文庫が地元新聞、テレビに報道されたり、パネルで展示されたりしたので、それをご覧になった方々からの問い合わせも数多く寄せられました。

新聞（原紙）保存年限の変更について

平成8年度から、中央館で受入中の一般紙・英字紙の保存年限を下記のように変更しました。

山陽（朝刊・夕刊）、中国	10年間
朝日、日経、毎日、読売、Japan Times	3年間
産経、日本教育新聞、Asahi Evening News、 Daily Yomiuri、Mainichi Daily News	1年間

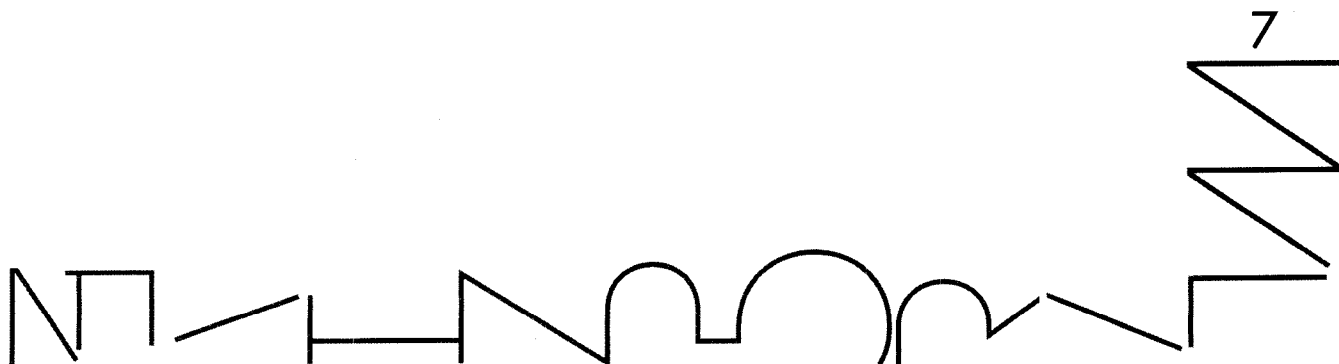
Methods in Enzymology 購入される

平成8年度自然科学系図書資料として「Methods in Enzymology」が採択され、受入手続きが終わり、中央館本館1階自然科学系雑誌閲覧室に排架されました。所蔵巻は、Vol. 1～6、8～275（1955年～1996年全278冊）で、Vol. 7は欠本になっています。

医中誌 Windows 版に

鹿田分館では、2階リサーチフロアに5月から医学中央雑誌のCD-ROM版専用の新しいパソコンを設置しました。'91年から'97年までの検索がWindows版でできるようになりました。年度変更時に検索式を再利用できるなど新しい機能も追加されました。

なお、'87年から'90年までは、これまで通り古い機種での利用となります。



会議

◆学外

- 9.4.25～4.26 第44回中国四国地区大学図書館協議会総会（於 松江東急イン）
・電子図書館に対するビジョン策定について、その他
- 4.26 第24回国立大学図書館協議会中国四国地区協議会（於 松江東急イン）
・図書館業務の外注化等への対応について、その他
- 5.27 平成9年度国立大学附属図書館事務部課

- 長会議（於 東京医科歯科大学）
・大学図書館の当面する諸問題について
- 6.16 平成9年度岡山県図書館協会総会（於岡山県総合文化センター）
・平成9年度事業計画について、その他
- 6.25～6.26 第44回国立大学図書館協議会総会（於 京都市勤業館「みやこめッセ」）
・平成9年度事業計画について、その他

◆学内

- 9.5.16 平成9年度第1回附属図書館運営委員会
・図書館資料整備新3年計画について、その他
- 6.10 平成9年度第1回池田家文庫等特殊文庫委員会

- ・池田家文庫の展示会について、その他
- 6.13 平成9年度第2回附属図書館運営委員会
・平成9年度図書館資料整備執行計画（案）について、その他

研修

・JOIS講習会

参加者 嵯峨奈美子 松永さおり 寺本智美
森谷めぐみ 中山栄美子
(6.11～6.12)

・BLDSCサービス説明会

参加者 嵯峨奈美子
(6.19)

編集委員会から

新年度とともに新館長をむかえて、新館もオープンしました。恒例の新入生オリエンテーションは、資料の配置替え等によって説明が複雑になりましたが、アンケートを見る限りでは好評でした。

広い室内にゆったりした閲覧机と椅子と数多くのパソコンに取り囲まれて、本館から移動した人文・社会科学系の図書は小さく見えます。

新館2階に移動した和雑誌の配置が、今までの分類順から五十音順に変更され、探しに行くたびに「アカサタナ……」と口の中で繰り返しています。

本誌名の由来でもある玄関の西側の楷の木に、鳩が巣をつくりました。無事子育てができることを祈っています。

岡山大学附属図書館報「楷」 No.25 平成9年7月25日

発行人 橋本健一 編集 広報委員会 表紙デザイン・レイアウト 清水國夫

岡山大学附属図書館発行 〒700 岡山市津島中三丁目1-1 電話086-252-1111